長野県公運協だより

第154号

発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里１－１－４
県立長野図書館内
電話（026）217－6256
FAX（026）217－7015

一年間が過ぎようとしている今

長野県公民館運営協議会
会長　山田賢一

新型コロナウイルス感染症の発生から三年が経過し、やっと出口が見え始めており、日常を取り戻す新しいステージを迎えてきています。

この一年間も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、二年間の経験値を活かしながら、第七十回県公民館大会を上田市で、公民館報研修会を松川町で参集形式での開催ができました。そして、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主事研修会は塩尻市において参集形式で一日の短縮開催ができました。館長総会の研修会は須坂市を主会場にオンライン開催となりました。どの事業も、役員の方々を始め実行委員会の皆様のご苦労に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、令和四年度の県公運協の活動を振り返ってみますと、コロナ禍を経験することによって、改めて公民館活動の大切さを考え直す大きなターニングポイントであったことに気付かされました。今まで何不自由なく当たり前に行われていた公民館活動のありがたさを知ることができ、これを機会に形骸化やマンネリ化した事業や形態を吟味し、新たな公民館活動の構築に向けて取り組む場を与えていただきました。

そして、「集う」ことに関しては、オフライン（対面）とオンラインの互いの良さを活かしつつ、状況に応じ適時なチャンネルの切り替えを教えていただいたように感じます。

地域社会においては、人と人のつながりの希薄化による社会的孤立の拡大、地域の担い手の減少など地域コミュニティの機能の低下する諸課題への対応が求められております。

今後の在り方としては、「集い・学び・結ぶ」の原点に立ち返り、これまでの公民館の存在価値を維持しつつも、コロナ禍に学んだことを活かし、時代の変化やニーズに合った新たな公民館を創り上げていきたいものであります。

一年間、本当にお疲れさまでした。

主事研修会報告

塩尻市中央公民館
主事　安藤寿秀

今年度の公民館主事研修会は「防災・減災の地域づくり～公民館が果たすべき役割とは～」をテーマに開催いたしました。コロナ禍で感染レベルが上がり下がりされる中、無事開催することが出来安堵しております。

全体会の講師は伊那市総務部危機管理課の小松剛様をお招きしました。伊那市や被災地の事例を参考に「地域防災」について考えさせられるご講演をしていただきました。防災については地域にとって取り組んでいかなければならないテーマの一つであり、そのために公民館でも様々な切り口で取り組んでいく必要があります。公民館では「つながりづくり」を重要視し様々な事業展開をしていますが、このつながりが非常時に活かされていきます。参加された皆さんも真剣に耳を傾け講演をお聞きし、また講演の途中ではグループでワークショップを行い、より深い学びになったかと思います。

全体会終了後は、四つの分科会に分かれて話題提供をしていただき、参加者同士での情報交

換や意見交換を行いました。各分科会ではグループワークが非常に盛り上がり、改めて対面で公民館関係者が情報交換・意見交換する場はよりよい公民館活動を作っていく上で大切なことだと感じました。

最後になりますが、会場準備等でご協力いただいた県公民館主事会の皆様を始め、公民館運営協議会の役員の皆様にも多大なるご尽力をいただいたことについて、この場をお借りして感謝申し上げます。

ブロックニュース　東信

公民館氷上運動会

北相木村公民館
主事　石井　肇

北相木村では小学校でスケート授業が行われていた頃、村内の田んぼを借り、リンクにして全児童が滑っていました。ただ、現在はスケート授業の時間が削減され、小学校で田んぼリンクは使用しなくなったので、村の有志の方達がリンクの整備と管理をしてくれています。その田んぼリンクを公民館でお借りして「氷上運動会」を開催しました。この事業自体は平成二十六年から行っていましたが、暖冬でリンクに氷が張らなかったり、コロナの影響で中止が続いた為、令和になってからは初開催となりました。

参加の対象は保育園児～小学生となっており今回は四十四名の子ども達が参加してくれました。

競技はカローリングを使用してのボーリングや、パンをどれだけ多くお皿にのせて運べるかを競う「パン積みリレー」、保育園児親子をソリにのせて、いかに早く引けるかを競う「ソリ引き競争」を行いました。最後にはチーム毎に景品を雪かきスコップですくう「景品すくい」をして、それぞれが景品を獲得していきました。半日の間ずっと氷上での競技でしたので、大人は冷えとの闘いでしたが、子ども達は一生懸命にチームメイトを応援し、熱気にあふれていました。テレビ信州さんも取材にきて頂き、インタビューを受けた子どもは大変喜んでいました。

コロナの流行以降、多くの公民館事業が中止となり、地区行事や地区児童会の行事も中止になった事もあり、人が集まる事自体に村民の多くが消極的になっています。五月からコロナが五類となり、公民館事業をこれまで通りに再開していく為にも、良いきっかけ作りになったかと思います。

リレーコラム

「長野県らしい公民館とは？」㊶

想い出に残る事業を

朝日村公民館
前館長　小林　信

今から二十六年前のことです。当時、私は地区ＰＴＡの役員を担当しており、毎年恒例の行事として、地区児童により「ごみ拾い」を行っておりました。その時、何か想い出に残り、皆が楽しめることはないか？と、ごみ拾いの後「ペットボトルロケット」製作教室を計画しました。集まった児童は、三十人程だったと思いますが、材料のペットボトル、ハサミなどは当日持参するように予め連絡しておき、発射台などは主催者側で用意しました。一人で一基作成するため教える側も大変で、役員二人により一時間半の時間内に、全員何とか完成までこぎ着けました。

さて、いよいよ発射です。会場の朝日グランドに移動し、数台の発射台にセットして一斉に打ち上げました。飛行距離を競うもの、高さを競うもの、それぞれが

「キャー・キャー」言いながら薄暗くなるまで楽しみました。

時が経過し、私が館長を務めさせて頂いた平成二十八年の体育祭の計画を検討した中で、「年々参加者が減少して競技にならない」との意見が多く寄せられ、それでは、「いつもと違った企画を取り入れてみよう」となり、子供達からメッセージを書いてもらった「ヘリウム入り」の風船を持って入場し、開会式に飛ばすことになりました。子供が集まれば、大人も集まるという目論見です。

残念ながら体育祭は、天候不順により中止となってしまいましたが、三週間後の文化祭で実現できました。小学六年生が書いたメッセージカード（連絡先は朝日村公民館）を風船に付け、全員が大きな輪となり、合図により一斉にリリースしました。「誰かが拾ってくれて返事が来ればよいなぁ」など思いを込めて、空高く飛び立った風船が見えなくなるまで見届けました。

それから数日後、埼玉県から三通の返事が来たのです。返事が来る確率は低いと思っていた私ですが、その時の感激は未だ忘れることはできません。

文面では、家族構成からカードを拾えた嬉しさ、近隣で生産している農産物の紹介、また、「カードを書いたA君によろしく伝えて下さい」などの伝言もありましたので、学校にも報告しました。

近年は、企画しても人が集まらなかったり、役員のなり手が無いなど、公民館事業運営に苦慮している所も少なくないと思います。しかし、孤立する人が生じないためにも、人は集まって楽しむ、そして想い出づくり。コミュニティ・スクールを原点に、知恵を絞り活動することを願っております。

この度は、執筆の機会を与えて頂き、ありがとうございました。

前年の想い出を年賀状のイラストにしています

ここに生きる

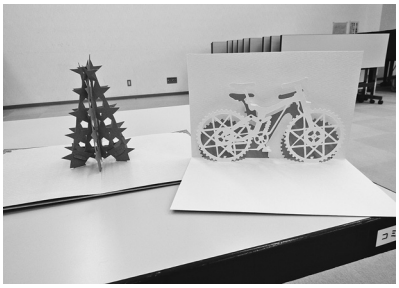
ペーパークラフトをたのしもう！

富士見町公民館
主事　入江由布子

富士見町公民館では、十一月から十二月にかけて、ペーパークラフト講座を開催しました。今回は大人向け講座とし、全三回の計四十八名の方に参加いただきました。

ペーパークラフトと一口に言っても、切り絵やグリーティングカード、動物などの立体的なものがあります。今回は参加者が作りたいものを選び、それぞれのペースで作ることとしました。自分の技量で作れるものを作ったり、少し難しいものに挑戦してみたり。なかにはお孫さんのために作る！という方もいらっしゃいました。好きな作品を作ることができたため、満足度は高かったように思います。

富士見町公民館では、「終了後にサークル活動へ繋げる」という流れが弱く、続けて活動したいけれどする機会がない、ということが多くみられました。今回は、講座参加者ではない方がサークルを立ち上げるという話があり、講座参加者の半数以上がサークルに加入することになりました。「人と人を繋ぐ」という公民館の役割を果たせたのではと思っています。



文学は時代を映す鏡

坂城町公民館
館長　塚田常昭

『文学は時代を映す鏡である。』という言葉があります。文学は、その時代の出来事や雰囲気を何らかの形であらわしています。その時代を映し出す文学は、その時代の証人となりうることができます。

更埴公民館運営協議会では、短歌、俳句、川柳、現代詩の四部門からなる更埴地区短詩型文学祭を開催しています。二十七年目を迎えた本年は、小学生から八十歳を超える方まで二千百六十八名の方

から、過去最高の二千六百十七点（短歌五百一首、俳句千四百四十六句、川柳三百九十五句、現代詩二百七十五篇）の作品を投稿していただきました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大から三年が過ぎました。今回の投稿作品の中にも、『コロナ』という言葉が入った作品、『コロナ』という言葉を使わないまでも、コロナによってもたらされた生活の変化を表した作品など、今の時代を反映した作品があります。新型コロナウイルス感染症が、今の時代に大きな影響を与えたことを物語っています。コロナ禍が収束し、この時代の作品にふれた時、コロナ禍の時代を思い出すのではないでしょうか。

『時代を映す鏡』として、更埴地区短詩型文学祭を大切に守り続けていきたいと思います。

県教委より

令和四年度 公民館活動アワード・フォーラム

令和四年度「公民館活動アワード」として、次の三つの団体（公民館）の活動が表彰されました。

【平瀬古城会・松本市島内公民館「地域の歴史的文化遺産を活用した地域づくりの取組」】

【東御市中央公民館「コロナに負けるな！公民館講座に集まれ！」】

【豊丘村公民館「ＳＤＧｓ推進活動」】

どの受賞団体も、コロナ禍であっても地域の住民や団体と連携し、活動が継続された取組です。

「表彰式・フォーラム」は、二月十一日（土）に県生涯学習推進センターで開催予定でしたが、前日からの大雪のため中止となりました。参加を予定されていた皆様には、大変ご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

なお、各受賞団体に作成していただいた取組の詳細については、県教育委員会のホームページに掲載いたしましたので、ぜひご覧ください。

（文化財・生涯学習課　指導主事　楠　武明）

公運協だより 編集委員のつぶやき

朝日村公民館　主事　山口純平

私は、役場に入庁した七年前も公民館主事として主に体育事業の担当をしていました。令和四年四月にふたたび公民館主事として戻ってきましたが、コロナ前の公民館とコロナ禍真っ只中の公民館では多くのことが違っていることにまず驚き、この一年は、公民館活動の意義そのものを問い直す、暗中模索の一年間となりました。

七十五年続くお盆の野球大会、七十二年続く村民体育祭、等々…。昔から続く、ある種地域の伝統となっている行事が開催できず、残念に思う意見もある中、何十年も変わらぬスタイルで続く行事を負担に感じていたという率直な意見も聞かれました。

今年度、朝日村では「公民館在り方検討委員会」と題して、公民館や社会教育に関わる村民の皆さんに複数回にわたって、今後の公民館の在り方について活発に議論していただいております。

「もう公民館は時代じゃない」などと様々な場面で私は聞くことがあったのですが、検討委員会の中では「あれは楽しかった」「こんなことやりたね」と多くの皆さんがまだまだ公民館に対して期待を寄せてくれていることを知りました。

いま、新しい公民館が動き始めています。

◈――◈――◈

令和４年度　公運協だより編集委員会

ブロック	氏　名	所属公民館
委員長	新井　存	長野市柳原交流センター
東信	箕輪美里	佐久市中央公民館
中信	山口純平	朝日村公民館
南信	入江由布子	富士見町公民館
北信	古林一房	小川村公民館